

岡山県感染症週報 2015年 第27週 (6月29日～7月5日)

◆2015年 第27週 (6/29～7/5) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第25週	2類感染症	結核	2名 (80代 男 1名、90代 男 1名)
	5類感染症	急性脳炎	1名 (幼児 男)
第26週	2類感染症	結核	1名 (70代 男)
	4類感染症	レジオネラ症	1名 (50代 男)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名 (60代 男)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3名 (60代 男 1名・女 1名、80代 女 1名)
第27週	2類感染症	結核	3名 (20代 女 1名、30代 男 1名、90代 女 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O26: 40代 女)
	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名 (50代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- 手足口病は、県全体で291名 (定点あたり4.59 → 5.39人) の報告があり、前週より増加しました。
- ヘルパンギーナは、県全体で93名 (定点あたり1.41 → 1.72人) の報告があり、前週より増加しました。

【第28週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O103: 小学生 女) の発生がありました。(7月9日)

- 腸管出血性大腸菌感染症**は、第27週に1名の発生報告があり、岡山県の2015年累計報告数は10名となっています。この季節、細菌が増殖しやすい高温多湿な環境になっていますので、手洗いを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
- 手足口病**は、県全体で291名 (定点あたり4.59 → 5.39人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、真庭地域 (8.00人)、岡山市及び倉敷市 (7.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
- ヘルパンギーナ**は、県全体で93名 (定点あたり1.41 → 1.72人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、岡山市 (3.57人)、備中地域 (1.86人)、倉敷市 (1.64人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ヘルパンギーナは、夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的なものです。例年、6月頃から急激に発生報告数が増加し、7月頃にピークを迎えます。感染している人の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込む飛沫感染や、便の中に排出されたウイルスが、手指などを介して口に入る経口感染によって感染します。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、幼稚園、保育園、学校などの集団生活では注意が必要です。うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★★★★	伝染性紅斑		★★★★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎 (ロタウイルス) については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移: : 2倍以上の減少 : 1.1～2倍未満の減少 : 1.1未満の増減
 : 1.1～2倍未満の増加 : 2倍以上の増加

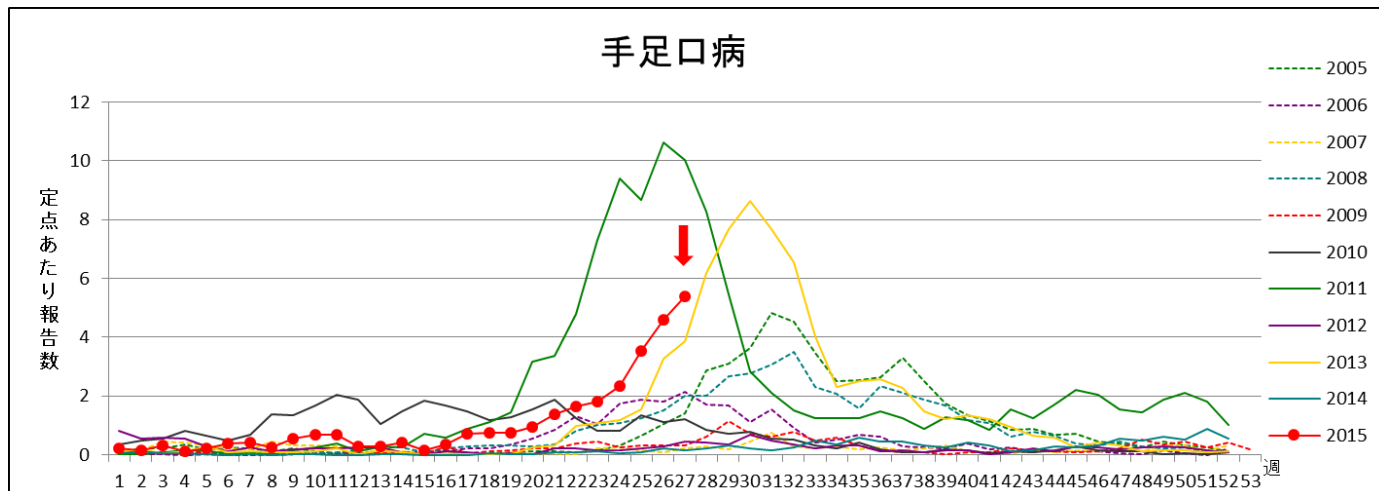
発生状況: 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

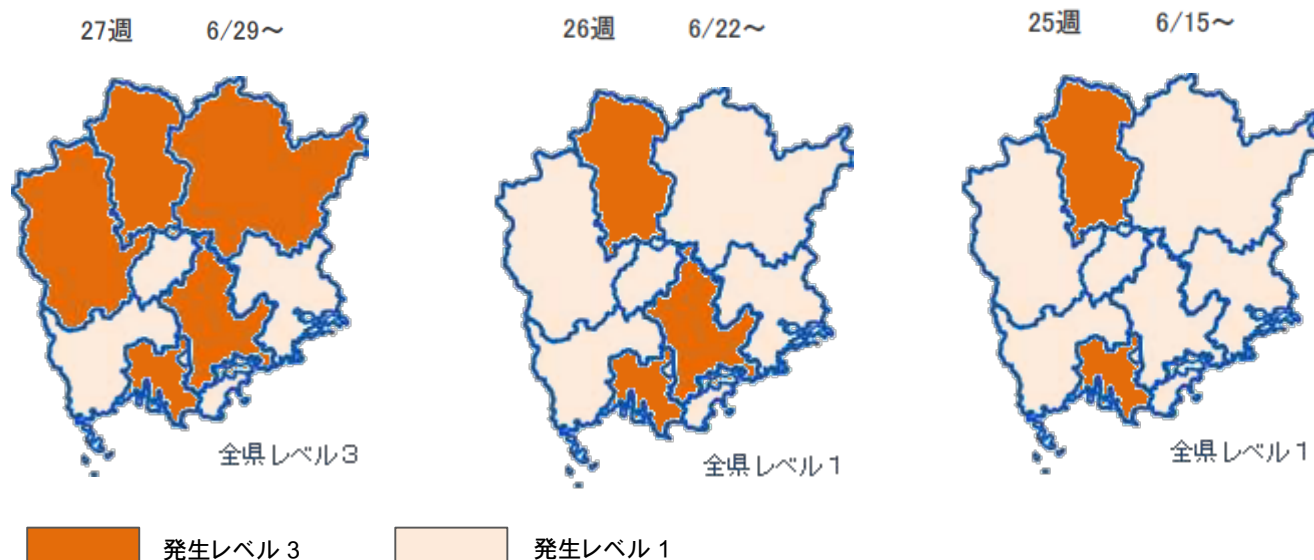
今週の注目感染症

手足口病

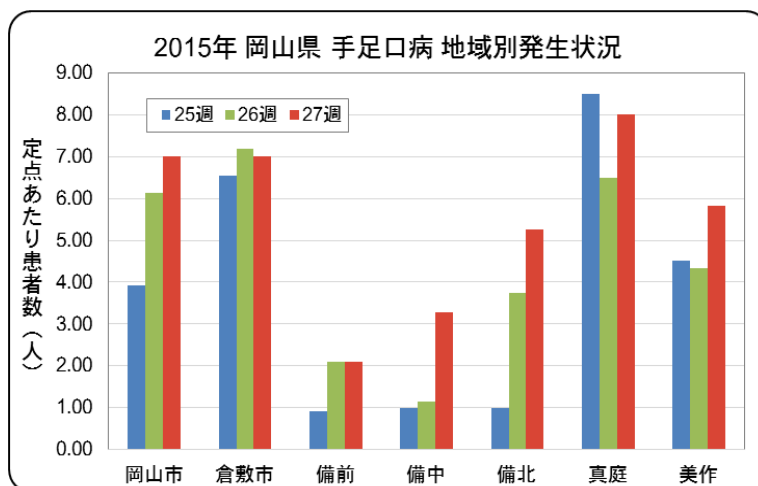
【岡山県の発生状況】



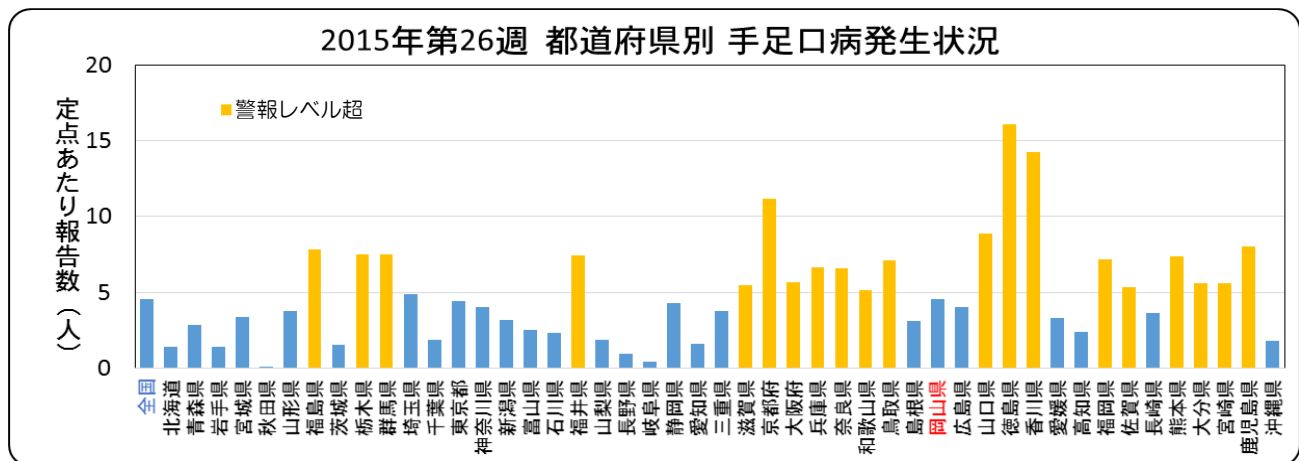
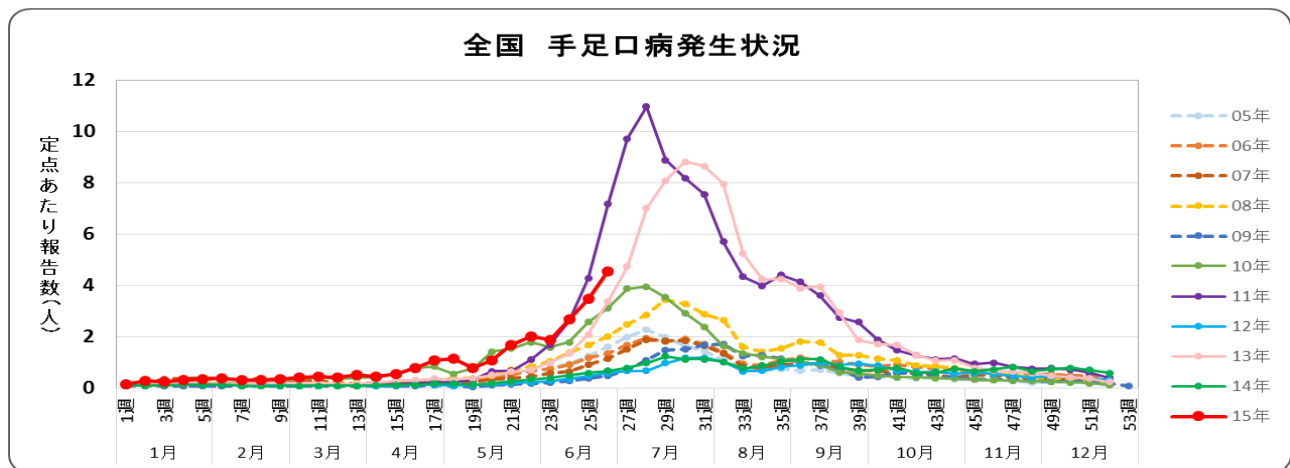
岡山県地区別 手足口病感染症マップ



手足口病は、県全体で 291 名（定点あたり 4.59 → 5.39 人）の報告があり、定点あたり報告数が 5 人を超えたため、県下全体の発生レベルが 3 になりました。地域別では、真庭地域（8.00 人）、岡山市及び倉敷市（7.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。また、美作地域（5.83 人）と備北地域（5.25 人）で、新たに発生レベル 3 となりました。例年、7～8 月頃に流行のピークを迎えますので、ひきつづき県内の発生状況に注意してください。



【全国の発生状況】



全国の第26週の発生状況は、定点あたり4.56人で、3週連続で増加しています。都道府県別では、徳島県（16.09人）、香川県（14.25人）、京都府（11.15人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、西日本を中心に流行していますが、東日本でも増加傾向にあります。

[IDWR 速報データ 2015年第26週（国立感染症研究所）](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染している人の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込む飛沫感染や、水疱の内容物や便中のウイルスが手指などを介して口の粘膜に入る接触・経口感染によって感染します。手足口病は、例年6月頃から患者数の増加がみられ、7～8月頃にピークとなる傾向があります。

【症 状】

3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発しんが出現するのが特徴です。3～7日で水疱が消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

【治 療】

特別な治療法はありません。基本的に軽い症状の病気のため、経過観察を含め、症状に応じた対症療法が行われます。口の中に発しんができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、嘔吐、頭痛、発熱が2日以上続く、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

【予 防】

手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒・適切に排泄物を処理するなど、感染予防に努めましょう。

[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

保健所別報告患者数(定点把握) 2015年 27週

(2015/06/29～2015/07/05)

2015年7月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	—	—	2	0.13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	3	0.06	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
咽頭結膜熱	12	0.22	8	0.57	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68	1.26	23	1.64	22	2.00	4	0.40	3	0.43	2	0.50	1	0.50	13	2.17
感染性胃腸炎	336	6.22	83	5.93	85	7.73	69	6.90	19	2.71	27	6.75	9	4.50	44	7.33
水痘	17	0.31	3	0.21	13	1.18	—	—	—	—	—	—	1	0.50	—	—
手足口病	291	5.39	98	7.00	77	7.00	21	2.10	23	3.29	21	5.25	16	8.00	35	5.83
伝染性紅斑	15	0.28	14	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
突発性発疹	22	0.41	11	0.79	3	0.27	5	0.50	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	93	1.72	50	3.57	18	1.64	11	1.10	13	1.86	1	0.25	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	32	0.59	2	0.14	3	0.27	1	0.10	2	0.29	1	0.25	—	—	23	3.83
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	9	0.75	6	1.20	1	0.25	—	—	1	1.00	—	—	—	—	1	1.00
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	1	1.00	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数(発生レベル設定疾患) 2015年 27週

(2015/06/29～2015/07/05)

2015年7月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	—	—	2	0.13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	12	0.22	8	0.57	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68	1.26	23	1.64	22	2.00	4	0.40	3	0.43	2	0.50	1	0.50	13	2.17
感染性胃腸炎	336	6.22	83	5.93	85	7.73	69	6.90	19	2.71	27	6.75	9	4.50	44	7.33
水痘	17	0.31	3	0.21	13	1.18	—	—	—	—	—	—	1	0.50	—	—
手足口病	291	5.39	98	7.00	77	7.00	21	2.10	23	3.29	21	5.25	16	8.00	35	5.83
伝染性紅斑	15	0.28	14	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	93	1.72	50	3.57	18	1.64	11	1.10	13	1.86	1	0.25	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	32	0.59	2	0.14	3	0.27	1	0.10	2	0.29	1	0.25	—	—	23	3.83
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	9	0.75	6	1.20	1	0.25	—	—	1	1.00	—	—	—	—	1	1.00

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第27週 2015/06/29～2015/07/05)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	3	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	12	-	2	4	2	-	1	1	-	-	1	-	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68	-	-	2	2	10	6	11	9	12	6	5	2	1
感染性胃腸炎	336	9	24	55	43	25	21	17	15	10	10	18	31	16
水痘	17	-	1	-	6	2	-	1	2	2	1	1	1	-
手足口病	291	1	28	78	58	41	30	20	15	11	4	-	3	-
伝染性紅斑	15	-	-	1	1	1	2	2	-	4	1	-	3	-
突発性発疹	22	-	8	12	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	93	2	7	22	25	12	12	5	1	3	2	1	1	-
流行性耳下腺炎	32	-	-	2	2	3	10	3	4	4	1	-	2	-

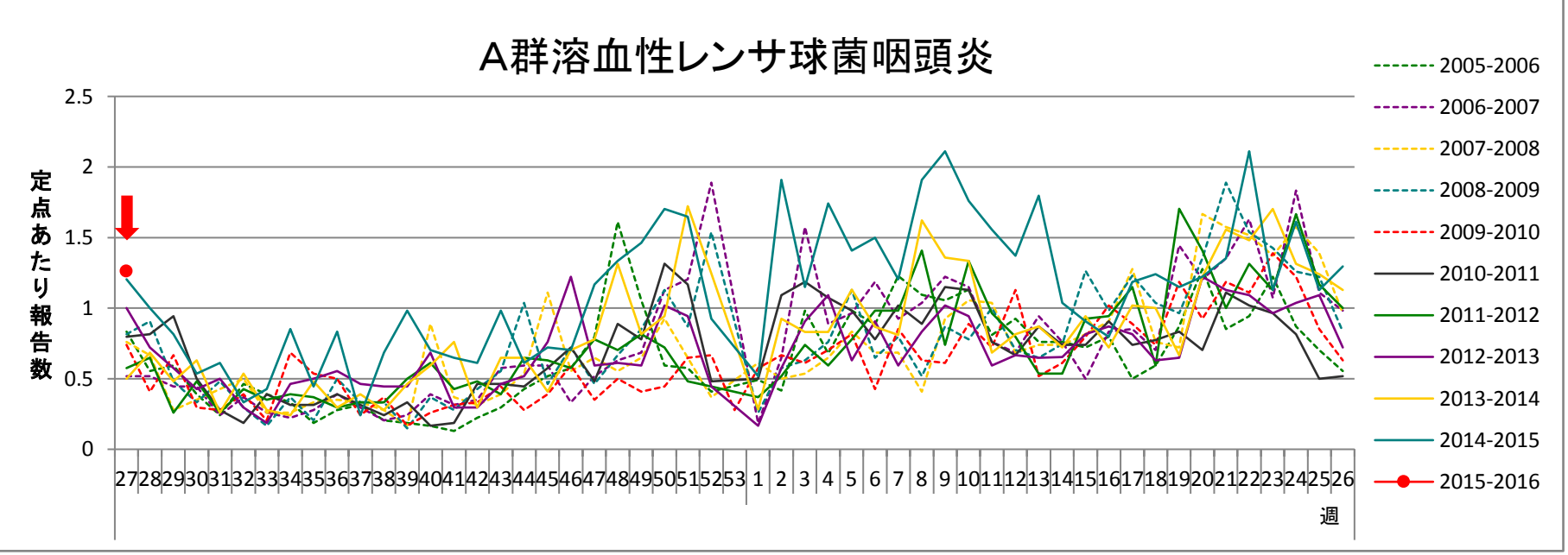
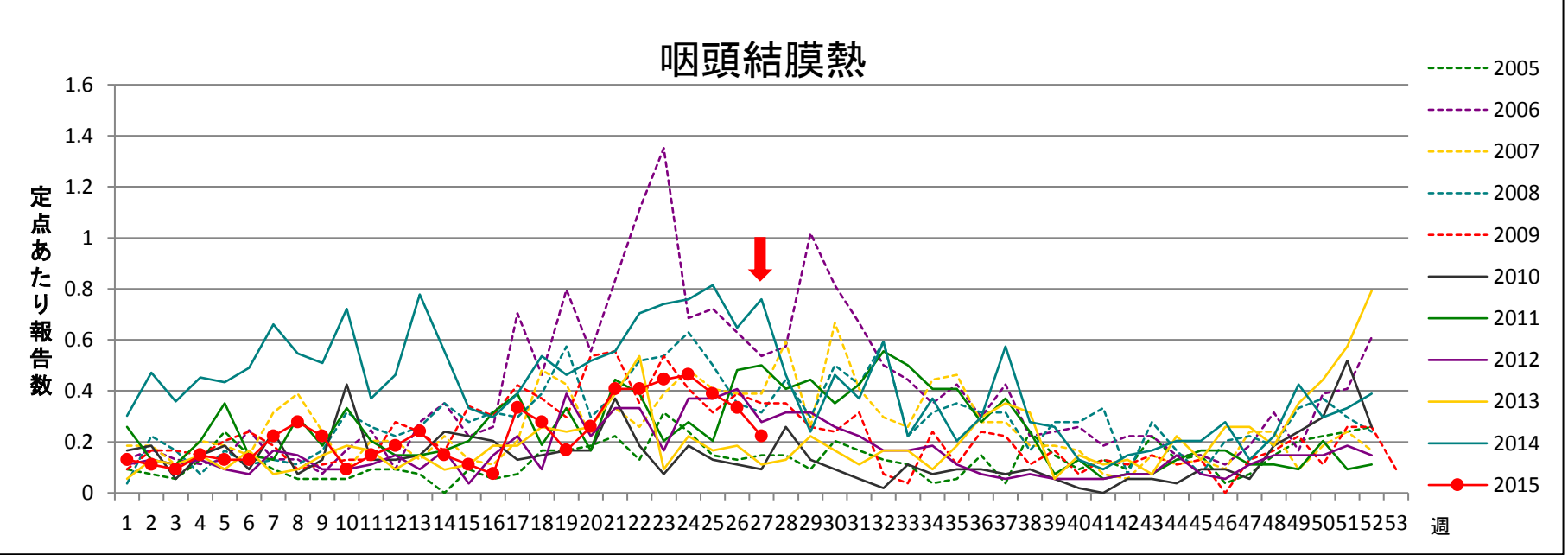
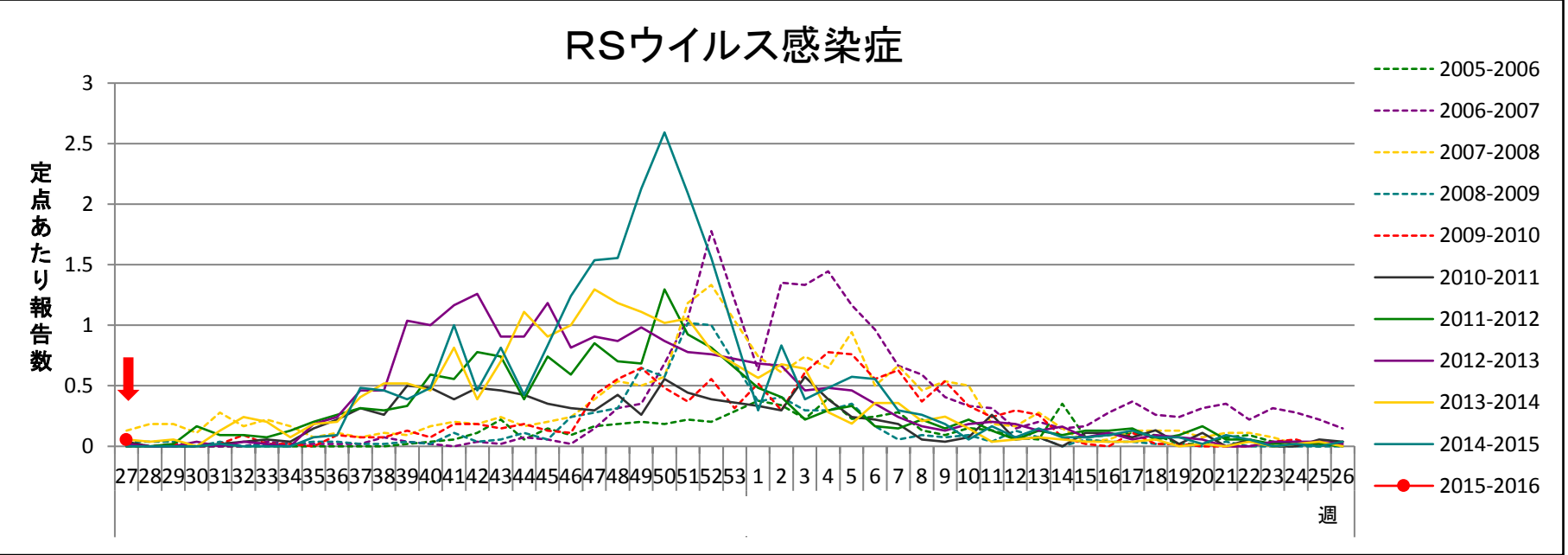
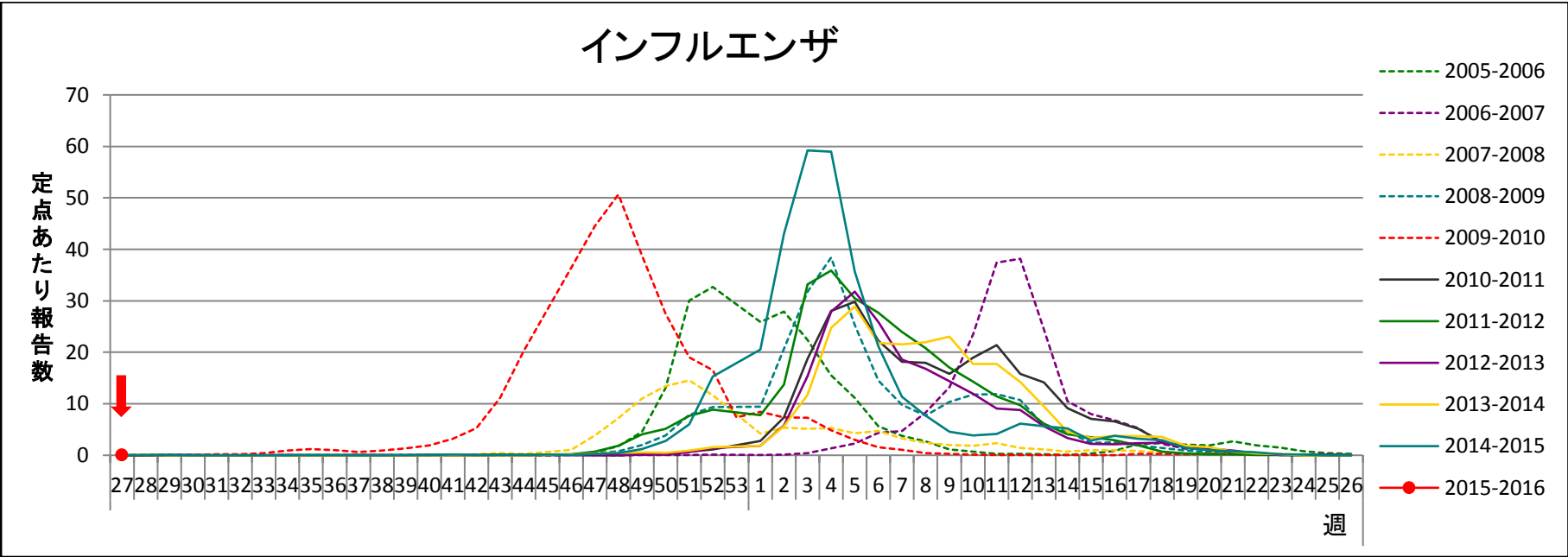
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	2	3	2	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

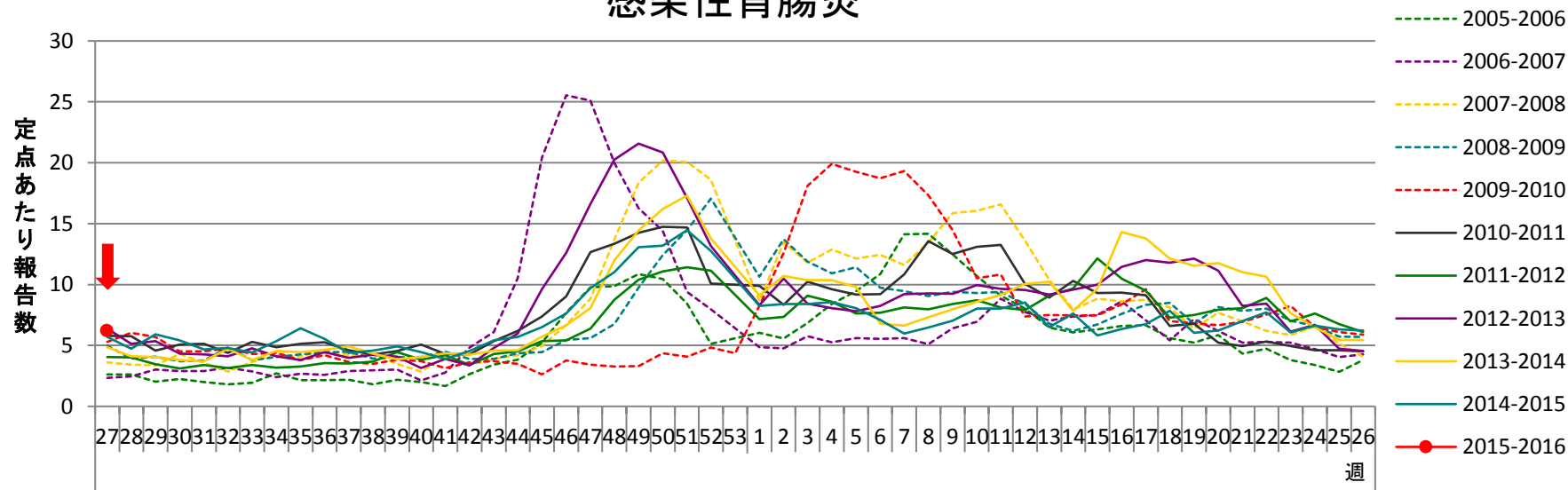
(- : 0)

2015 年 27 週

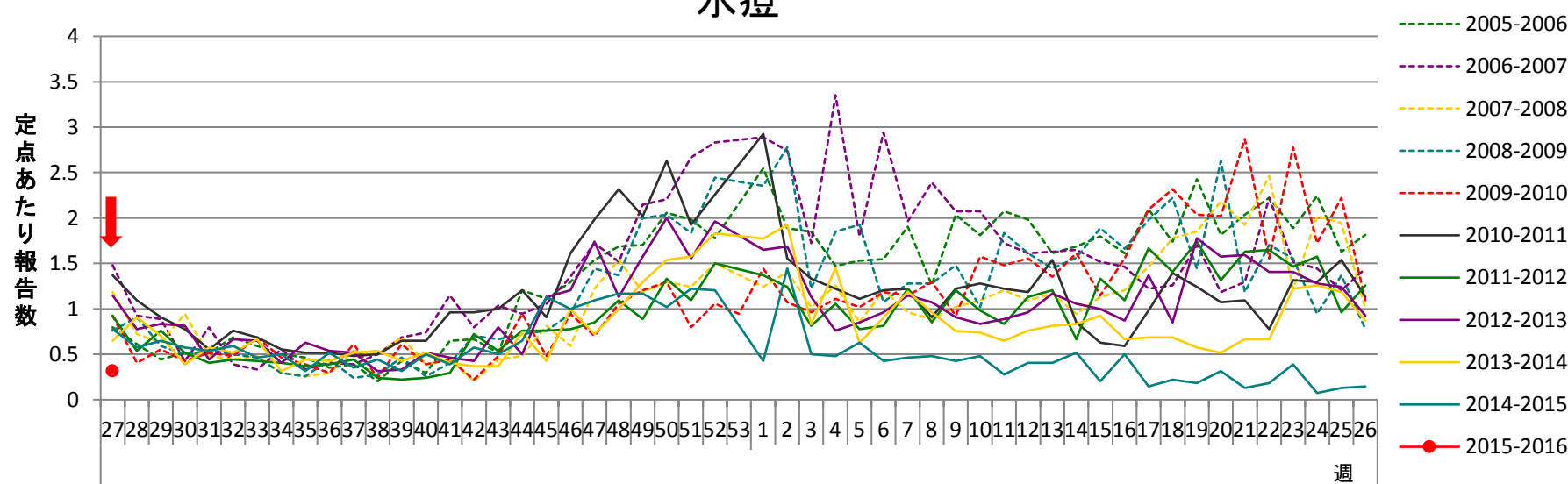
分類	疾病名	2015			疾病名	2015			疾病名	2015		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	162	384	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	1	－	腸管出血性大腸菌感染症	1	10	71
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	2	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	6	8
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	1	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	－	－	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	－	4	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ポツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	1	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	12	32	レプトスピラ症	－	－	－
	ロッキーマウンテン紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	11	12	ウイルス性肝炎*3	－	4	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	22	12
	急性脳炎*4	－	9	9	クリプトスポリジウム症	－	1	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	－	3	後天性免疫不全症候群	1	14	21	ジアルジア症	－	－	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	20	27
	水痘(入院例に限る。)	－	1	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	8	21
	播種性クリプトコックス症	－	1	1	破傷風	－	－	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	2	風しん	－	－	2	麻しん	－	－	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



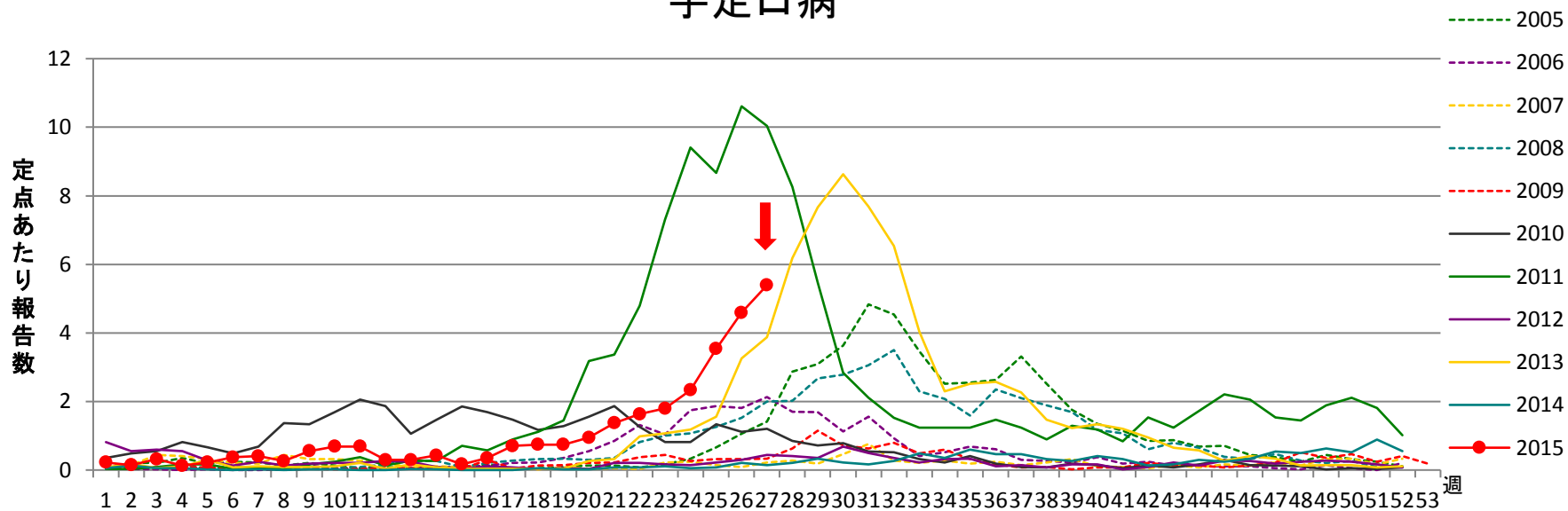
感染性胃腸炎



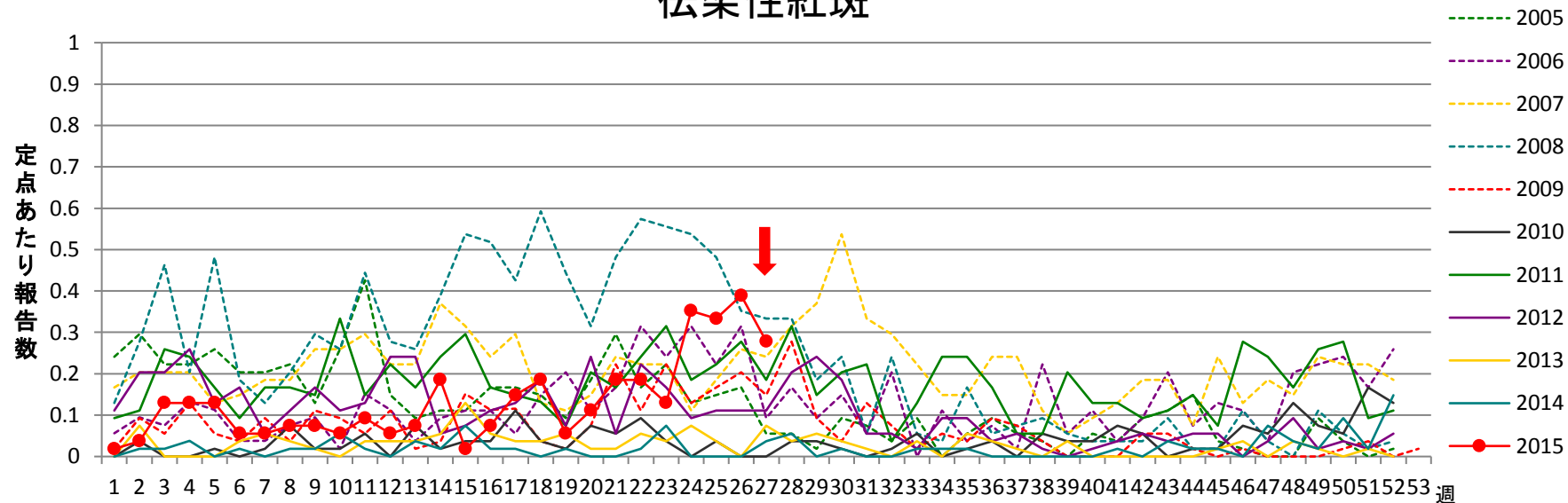
水痘



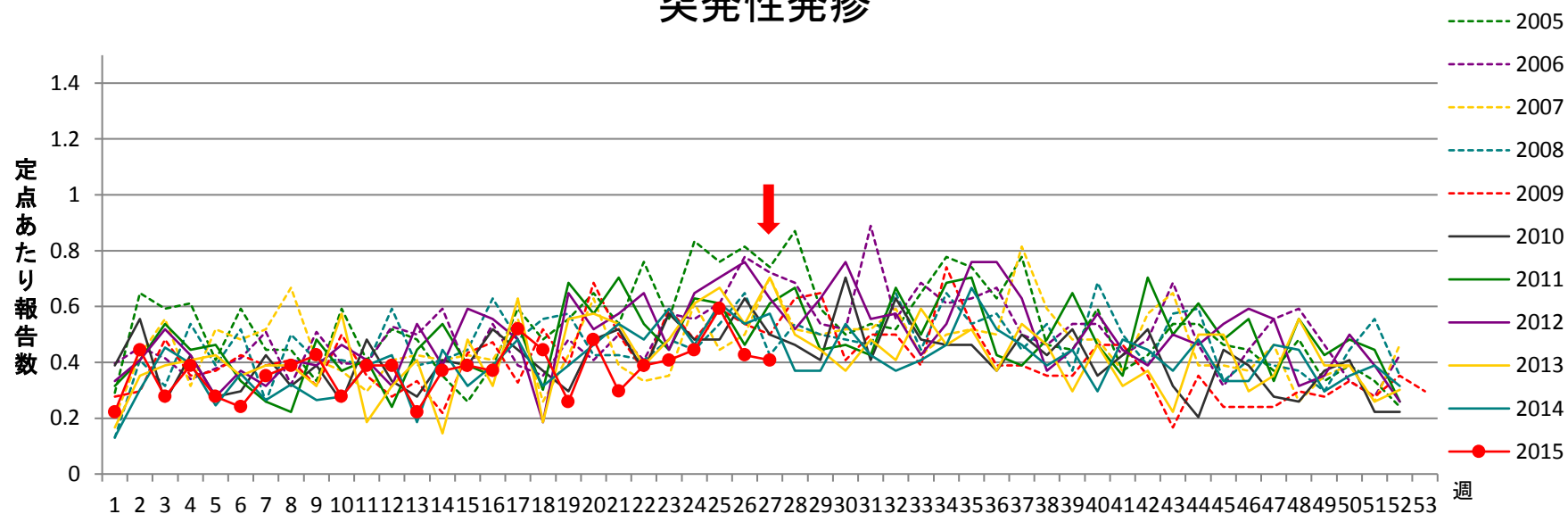
手足口病



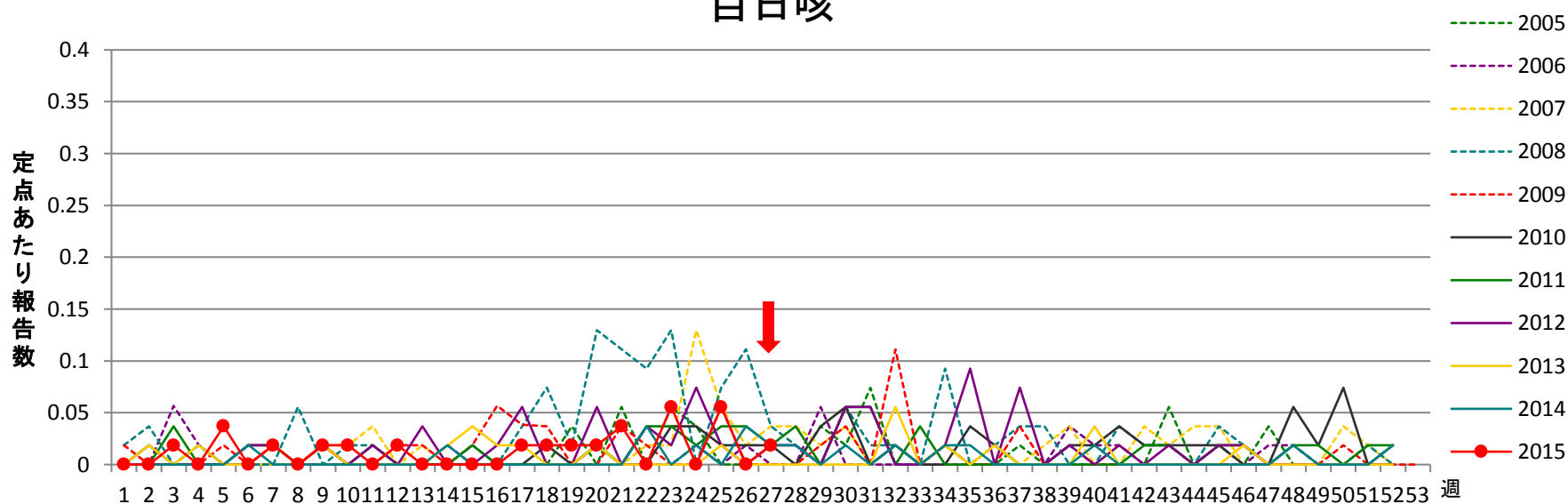
伝染性紅斑



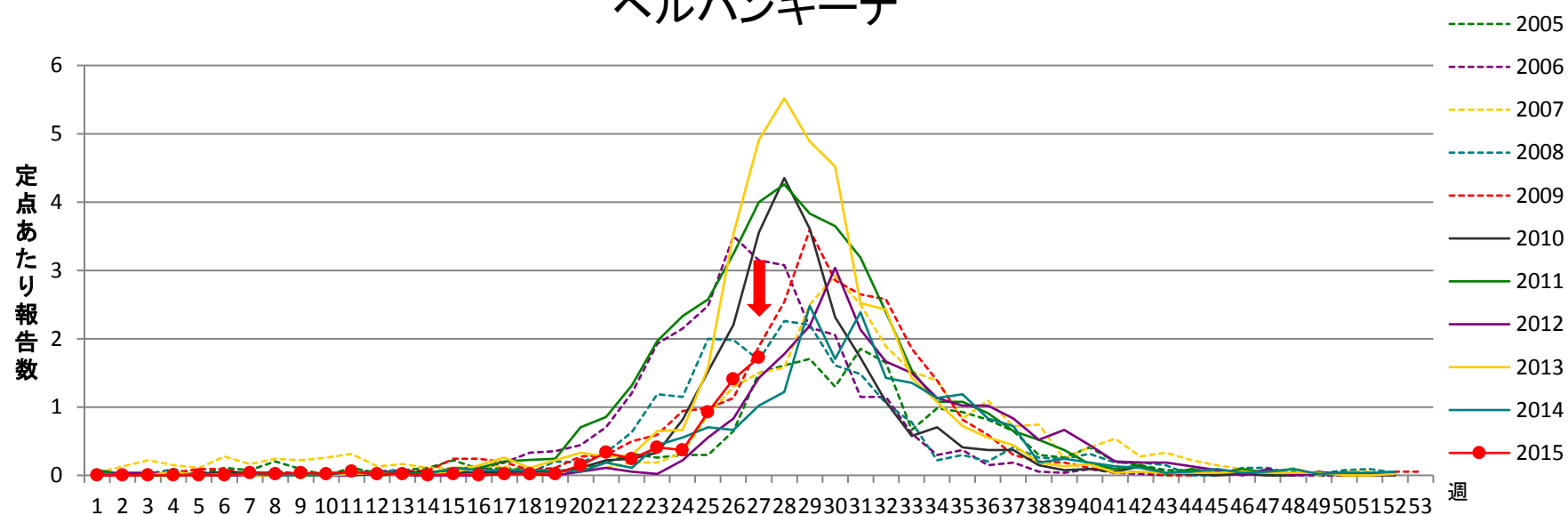
突発性発疹



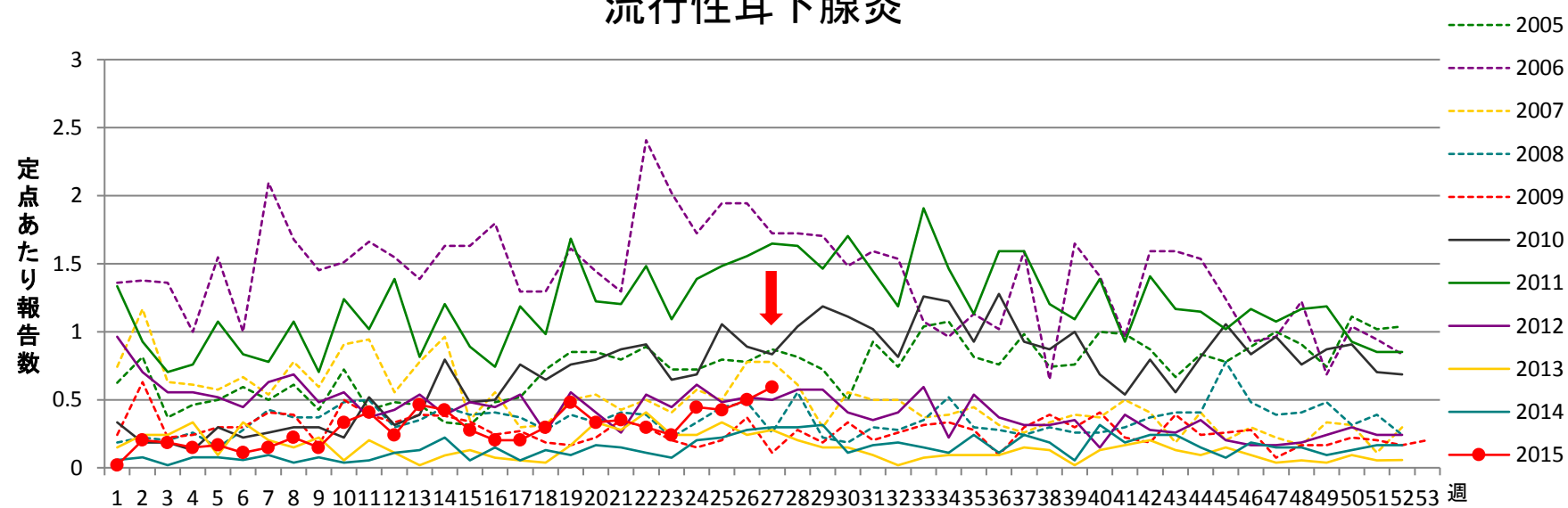
百日咳



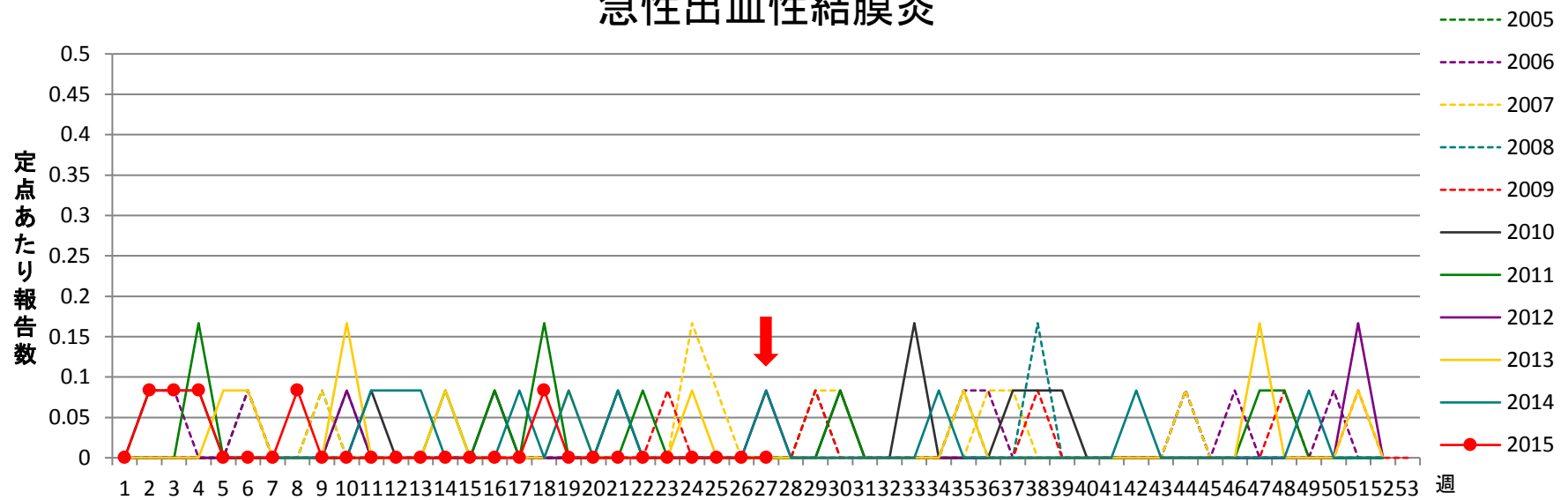
ヘルパンギーナ



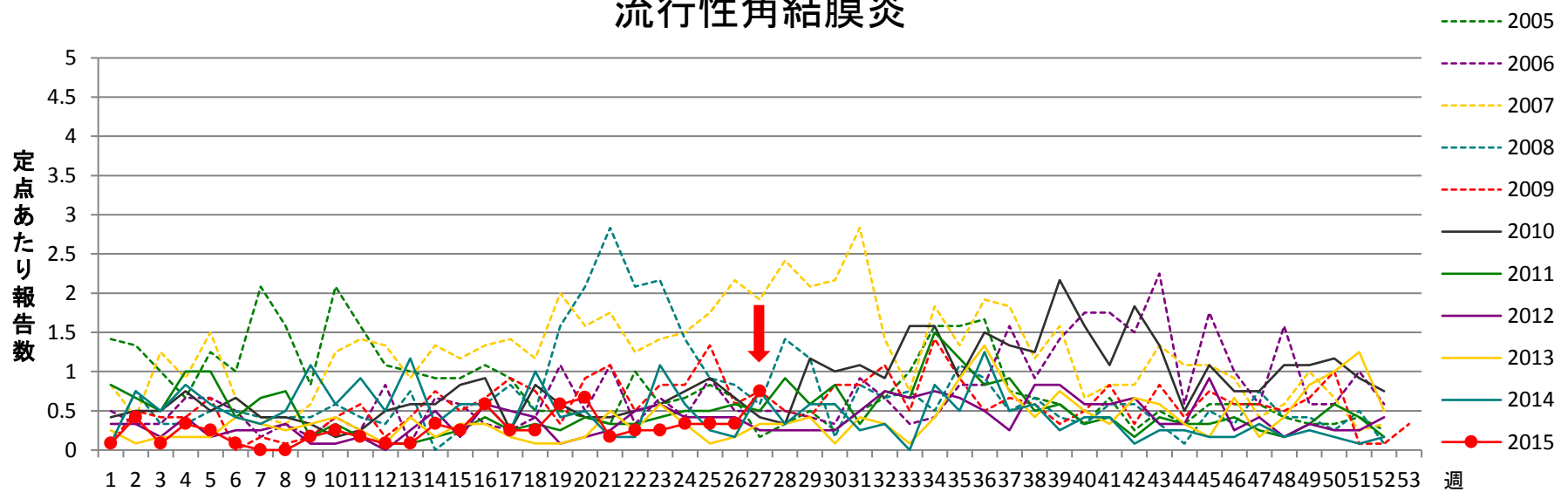
流行性耳下腺炎



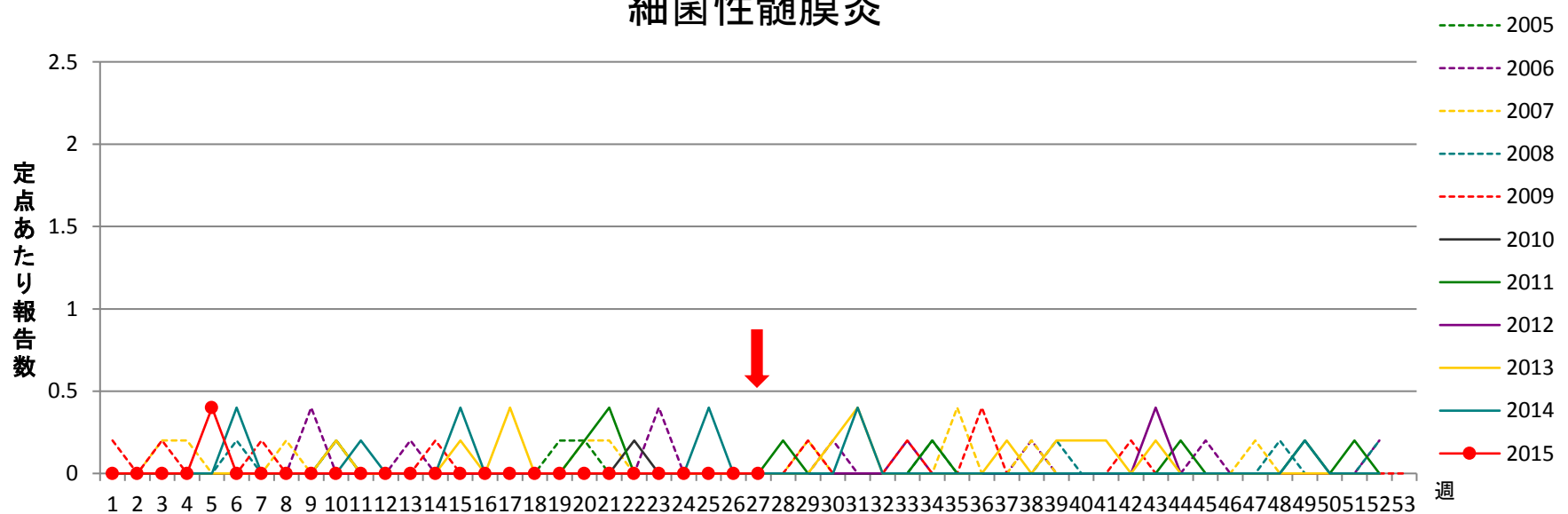
急性出血性結膜炎



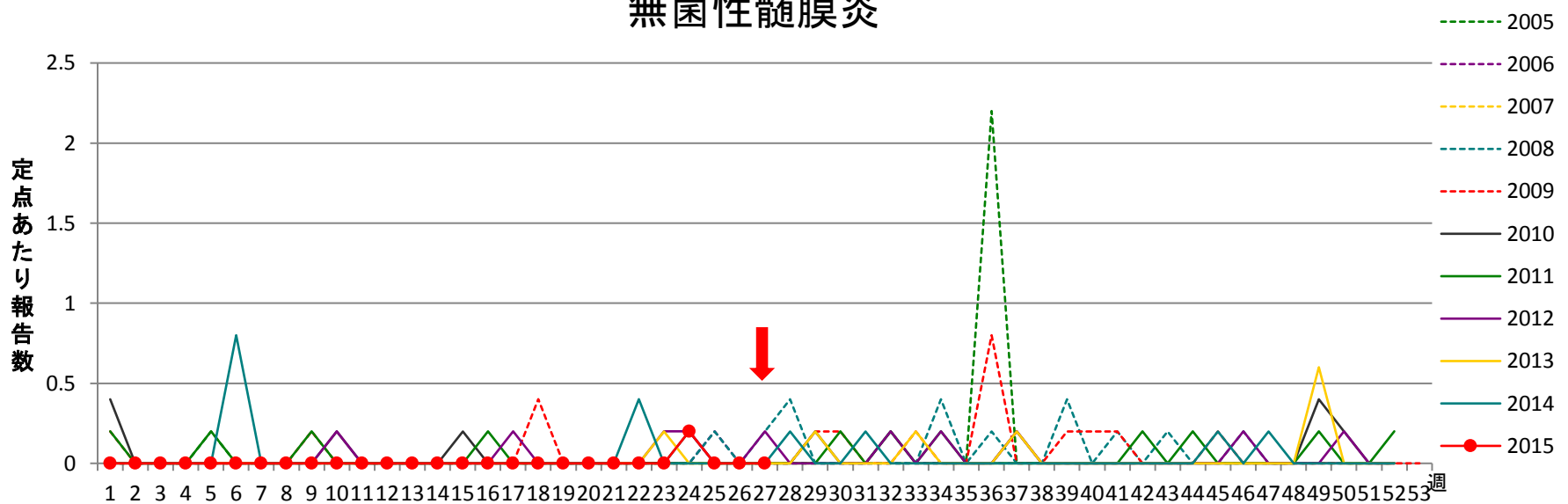
流行性角結膜炎



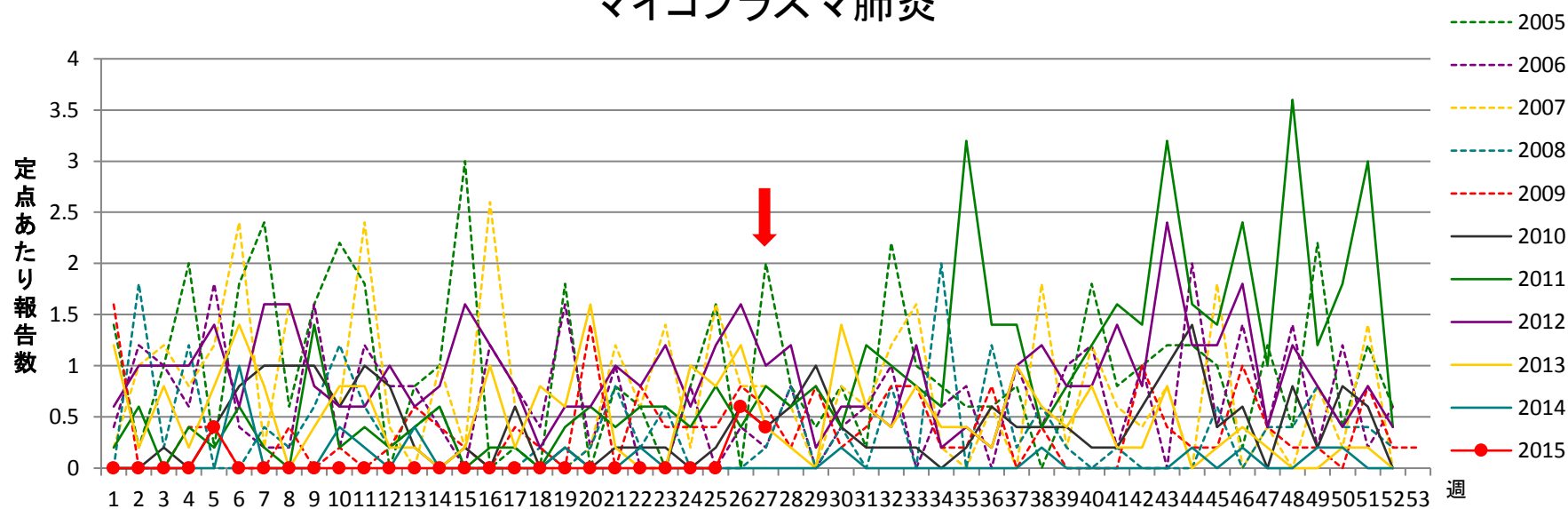
細菌性髄膜炎



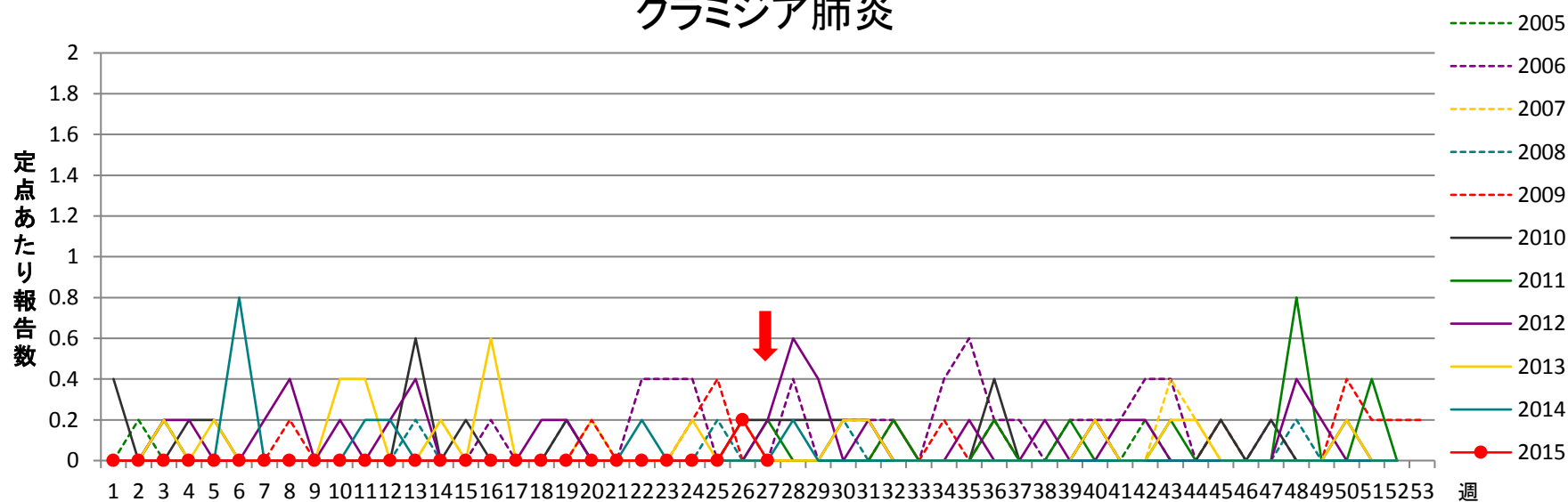
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

